

プライバシー侵害と リスク観に関する考察

リスク工学専攻 前期1年 4班

清水航士 鈴木研悟 染谷勝彦

アドバイザー教員 掛谷英紀

Agenda

1. 研究背景
2. 研究目的
3. 監視カメラへの意識調査
4. プライバシー全体の意識調査
5. まとめ

研究背景(1/2)

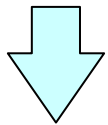
プライバシー権を巡る事例



「宴のあと」事件(三島由紀夫)
「石に泳ぐ魚」事件
「京都府学連デモ」事件
「Nシステム」訴訟 etc...

プライバシー権とは何か？

1890年 … 「the right to be let alone」(一人にしておいてもらう権利)
S.D.Warren、L.D.Brandeis 等が定義



現在 … 自己情報コントロール権

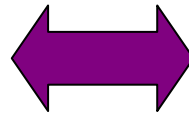
広く世に認められた定義とは言えない

研究背景(2/2)

監視カメラを巡る論争

監視カメラ推進派

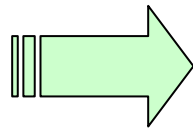
過去の判例や犯罪統計資料に基づき、
監視カメラの正当性・有効性を主張



監視カメラ反対派

・自由や尊厳の侵害
・精神的苦痛
を主張

市民の意識は？



2003年 東京都杉並区

「監視(防犯)カメラに関する区民意識・実態調査」

問題

- ①監視カメラの定義・管理主体が不明瞭
- ②プライバシーに関わる諸問題を網羅せず

研究目的

プライバシーの問題を論じる際、
個人情報を提供する当事者の感じ方が重要

監視カメラ限定の
意識調査

プライバシー侵害全般の
意識調査

- ①監視カメラの設置や個人情報の提示による
安全性・利便性
- ②人権の侵害と精神的苦痛

目的

人々のプライバシー侵害意識の実態調査と分析

監視カメラへの意識調査

監視カメラへの意識調査(1/2)

アンケートによる調査・分析

- 問題を監視カメラに**限定**

監視による
不利益の有無



カメラへの抵抗感に
影響を与えるのか？

調査項目

- ① 社会のルールや法に違反する傾向
- ② 様々な管理主体のカメラへの抵抗感との関係

違反傾向の強い人が、監視カメラに対して強い抵抗感を抱くのでは？

監視カメラへの意識調査(2/2)

アンケートの特徴

□ 留意点

①アンケートの調査名目をカモフラージュ

②ダミー設問を多く、ランダムに配置

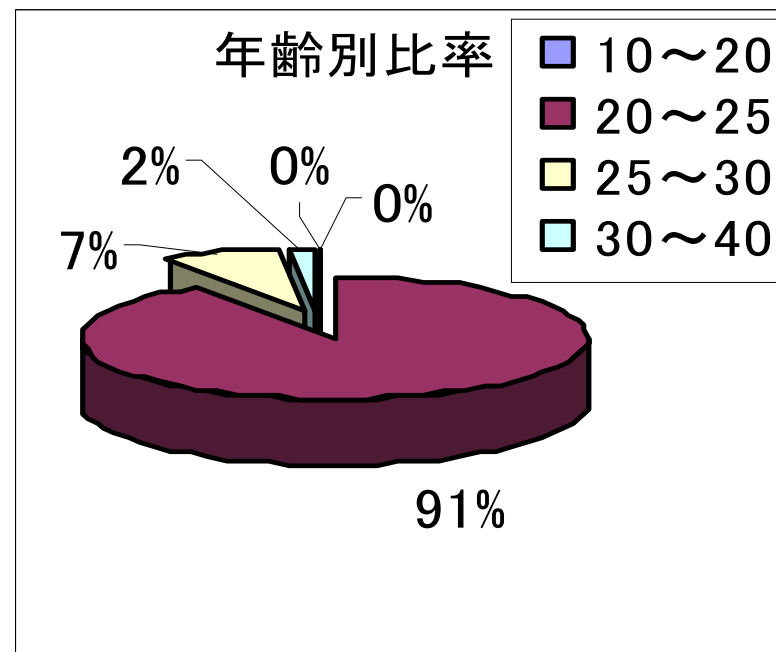
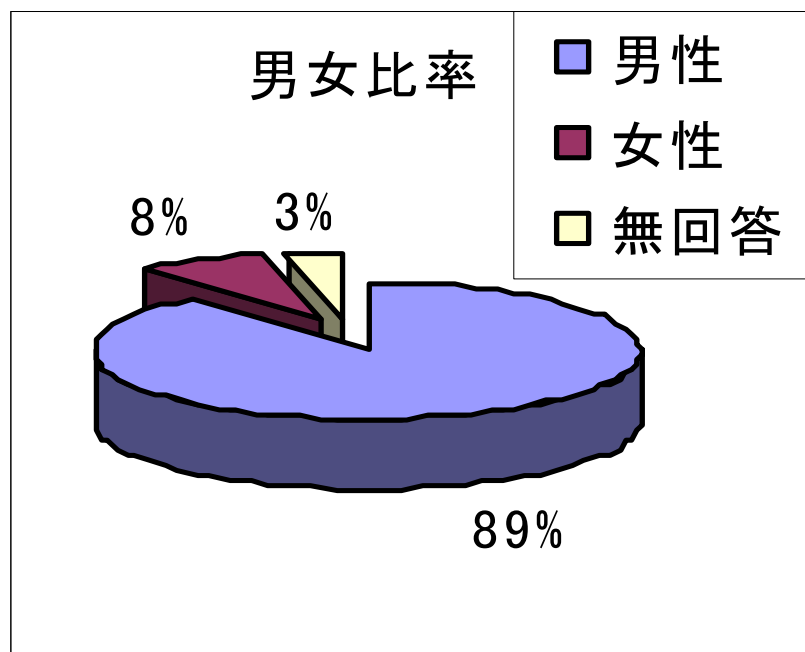
→犯罪経験について直接聞くと正直な答え
が得られにくい

③犯罪経験については、日常的に直面しうる
軽犯罪、ルール違反を中心に選択

→軽犯罪についてのアンケート調査事例
が少ない。

回答者の内わけ

□ 回答者数: 125人



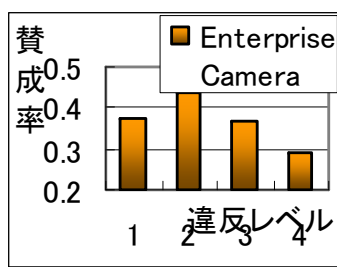
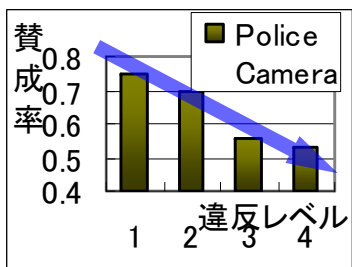
アンケート

アンケートの分析

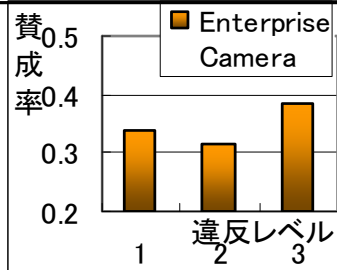
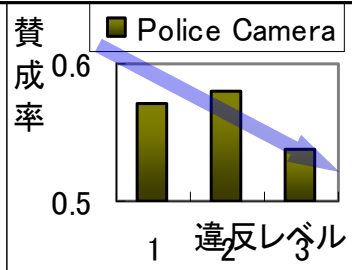
- 各違反・各監視カメラに対する回答を抽出
- 違反頻度や程度を**違反レベル**と呼び、
設問の選択肢と1対1で対応
- 違反をする人々が警察、民間企業団体が管理する
カメラについて賛成する割合を**賛成率**と呼ぶ
- それぞれの違反について、各監視カメラについての
賛成率と違反レベルをプロット

アンケート結果(1/3)

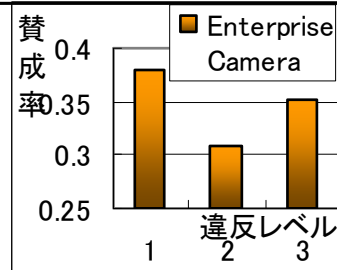
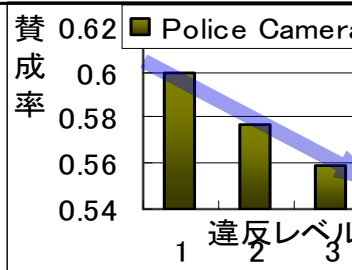
警察が管理するカメラに抵抗感が見られた項目



自動車のスピード違反



自動車の飲酒運転



NHKの受信料未払い

自動車の速度違反・飲酒運転の取締りは警察が行う

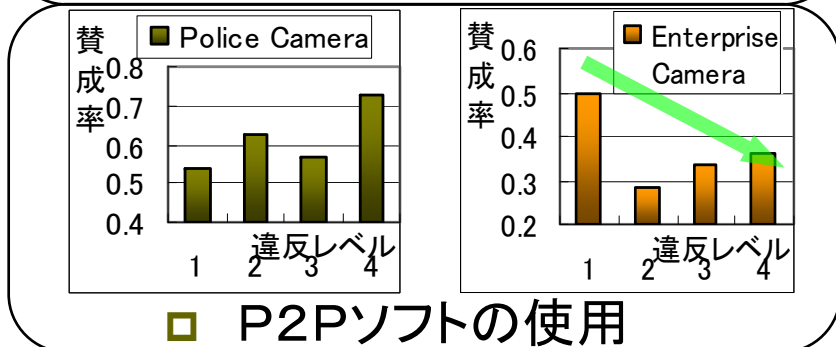
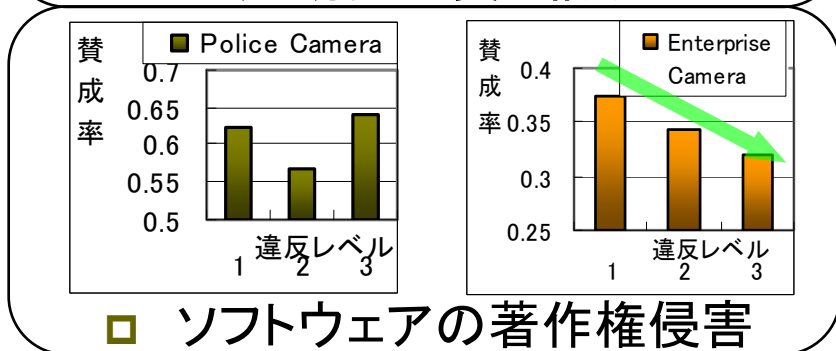
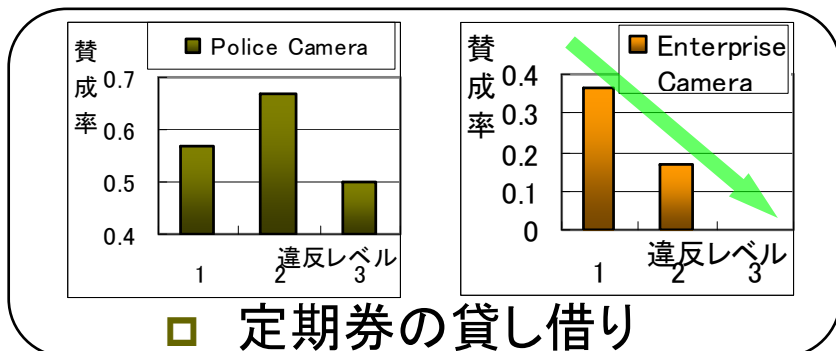
NHKについては警察が取り締まってはいないが……



未払いに対して罰則が設けられるという議論が話題となったことが影響した可能性

アンケート結果(2/3)

民間・企業団体が管理するカメラに抵抗感が見られた項目



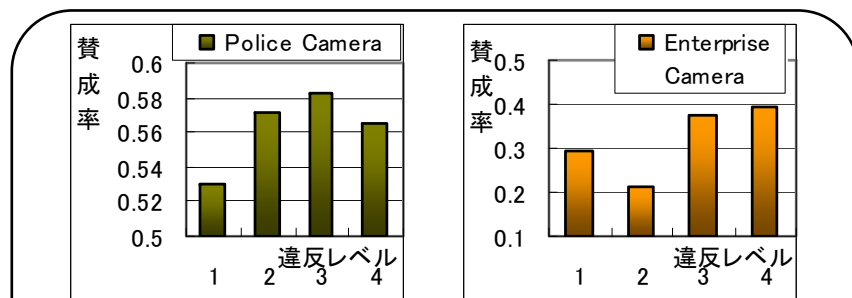
- 定期券の貸し借り
- ソフトウェアの著作権侵害
- P2Pソフトの使用



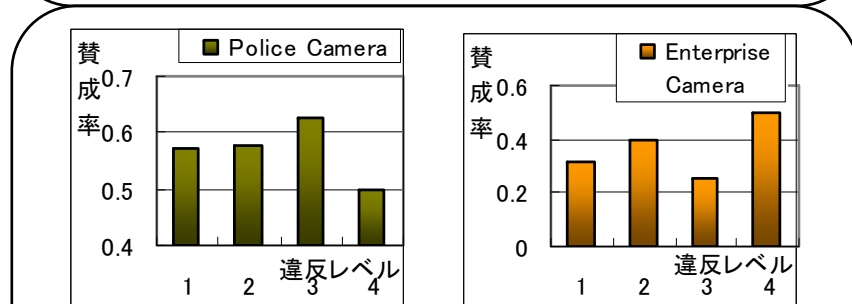
企業が取り締まりの主体

アンケート結果(3/3)

□ どちらのカメラにも抵抗感が見られない項目



□ 自転車の飲酒運転



□ 交通機関の優先席の使用

□ 自転車の飲酒運転



- ・悪いと思っていない人が多く存在
- ・こらむ罰が小さい

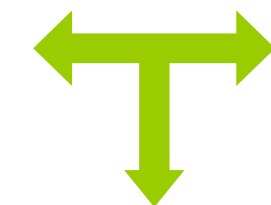
□ 交通機関の優先席の使用



- ・明確な罰が存在せず
- ・日常的に問題になっていない

考察

違反を管理する団体の
カメラに対する抵抗感



違反を犯す頻度

比例関係

- 調査名目を伏せ、質問をランダムに配置したにもかかわらず、明確な傾向が見てとれた。



違反の取り締まり元に対して無関心であれば、
すべての項目で偶然に比例関係が出るとは考えにくい

プライバシー全体についての意識調査

プライバシー全体についての意識調査

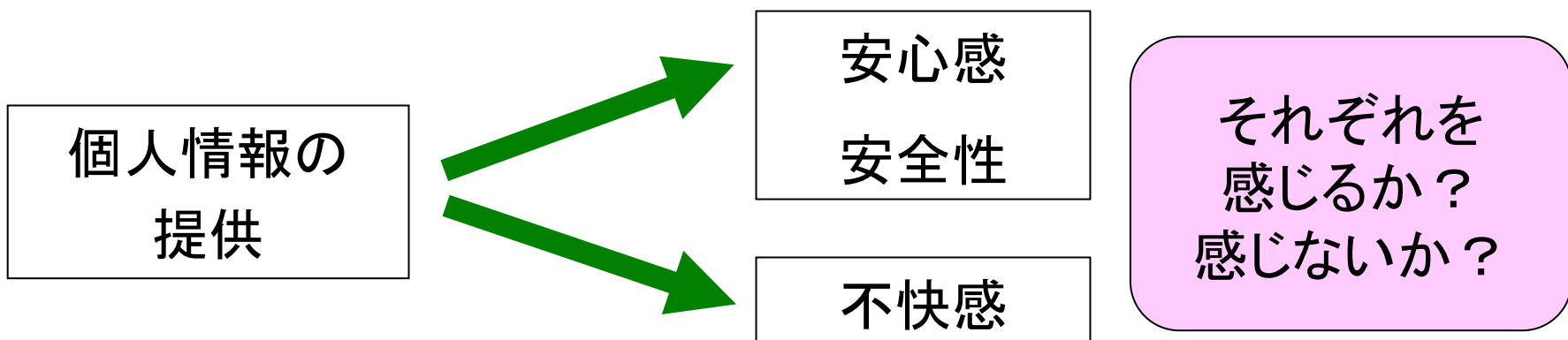
アンケートによる調査・分析(大問Ⅰ～Ⅲ)

大問Ⅰ:安全のための情報提供(19問)

各設問について、

- ①不快と感じるか
- ②安心を感じるか
- ③経験したことがあるか

を質問



プライバシー全体についての意識調査

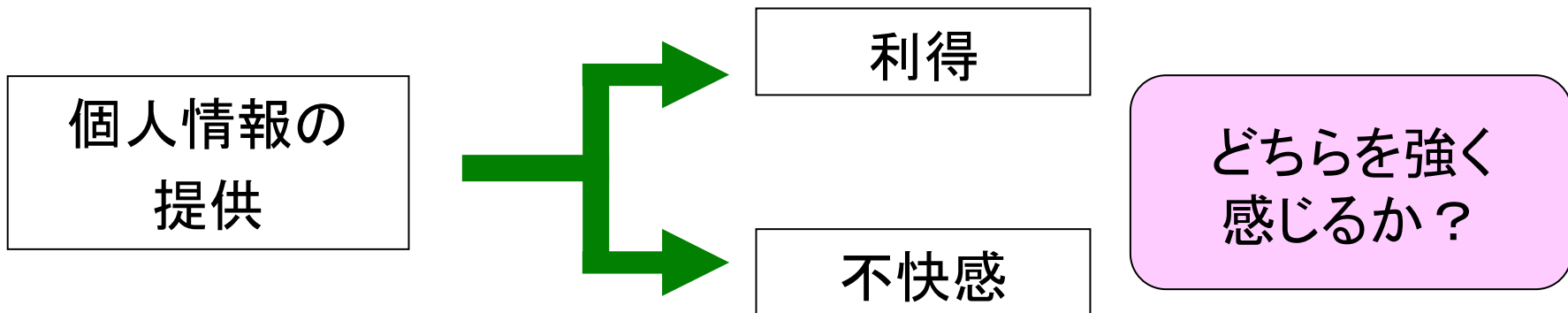
大問Ⅱ：安全に寄与しない情報流出（13問）

各設問について、

①不快感と利得、どちらを強く感じるか、

②経験したことがあるか

を質問



大問Ⅲ：プライバシー侵害による実害の想定

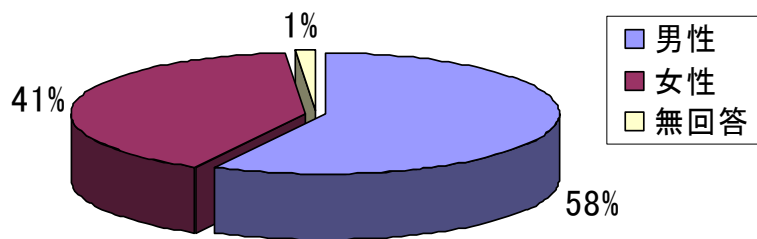
①実害の想定の有無

②想定がある場合、その具体的内容

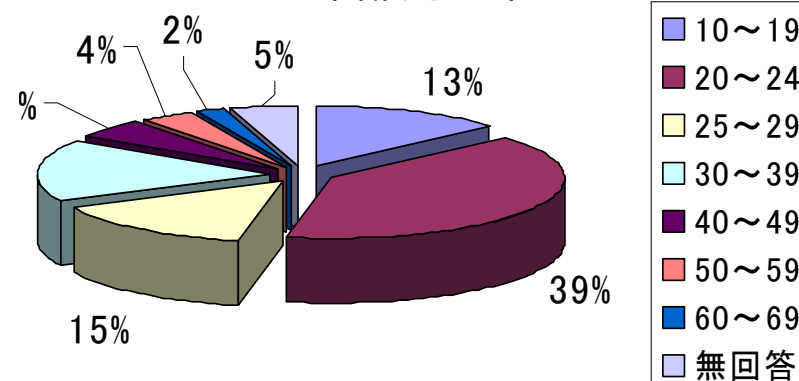
回答者の内わけ

□ 回答者数: 239人

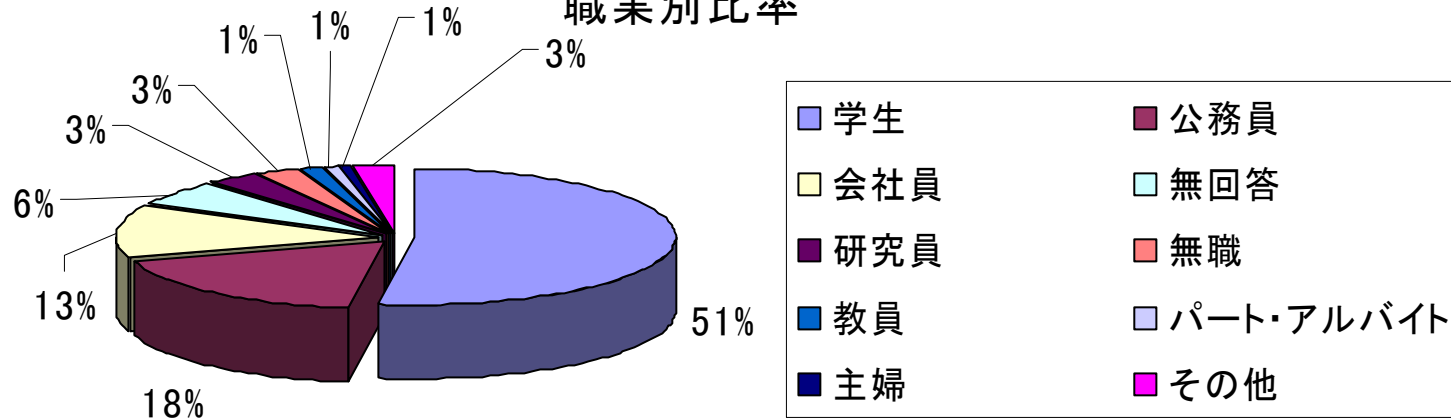
男女比率



年齢別比率



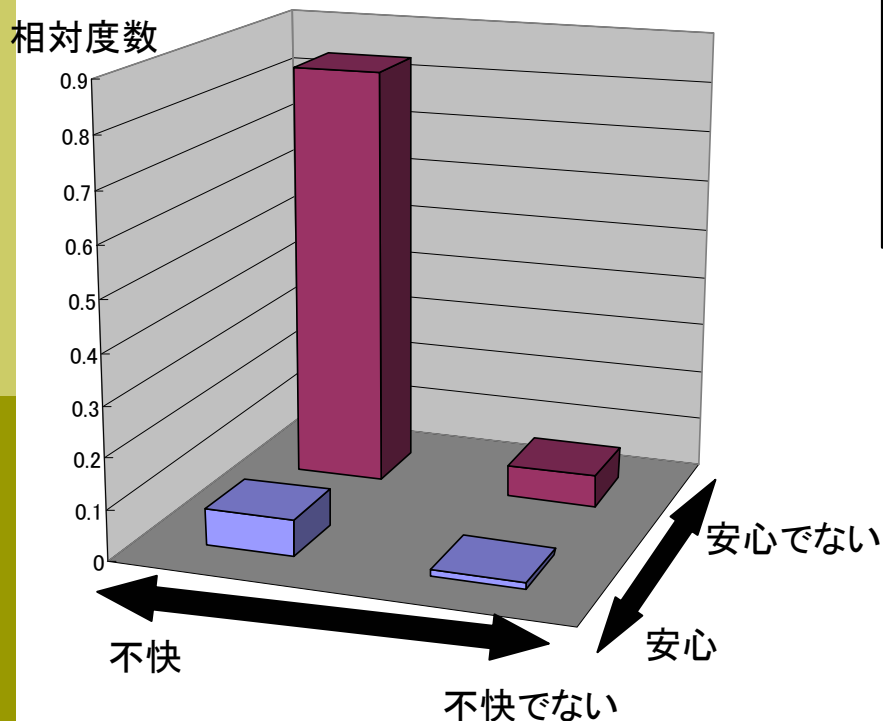
職業別比率



アンケート結果(大問 I ー 全体)

Group1: 不快感が強く、安心感が弱い

例: 事前通知のないメールの検閲(設問1)



回答の傾向	設問
不快感が強く 安心感が弱い	<ul style="list-style-type: none">・ 職場における、事前通知のないメールの検閲 (設問1)・ 職場における、事前通知のあるメールの検閲 (設問2)・ オフィス・教室の監視カメラ (設問16)・ 携帯電話の記録 (設問17)

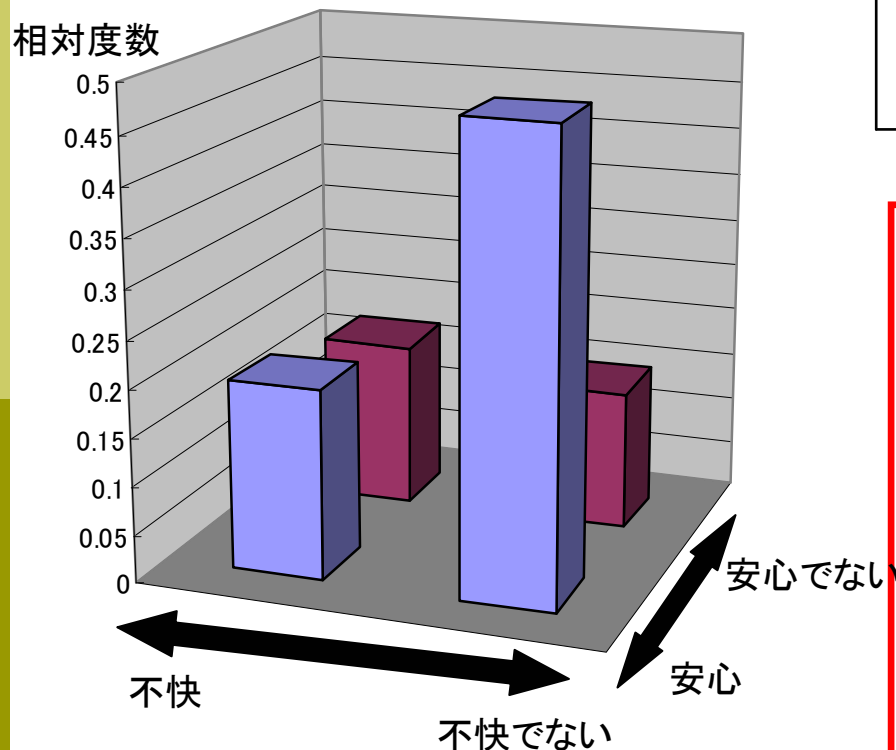
共通点

- ① 避ける事のできない状況である
- ② 監視の対象が個人である
- ③ 情報の提供が連続的である

アンケート結果(大問 I ー 全体)

Group2: 不快感が弱く、安心感が強い

例: 公園・大通りの監視カメラ(設問3)



回答の傾向	設問
不快感が弱く 安心感が強い	・ 公園、大通りの監視カメラ (設問3) ・ 自動車ナンバーの監視 (設問12) ・ スーパー・コンビニのATM (設問15) ...etc

共通点

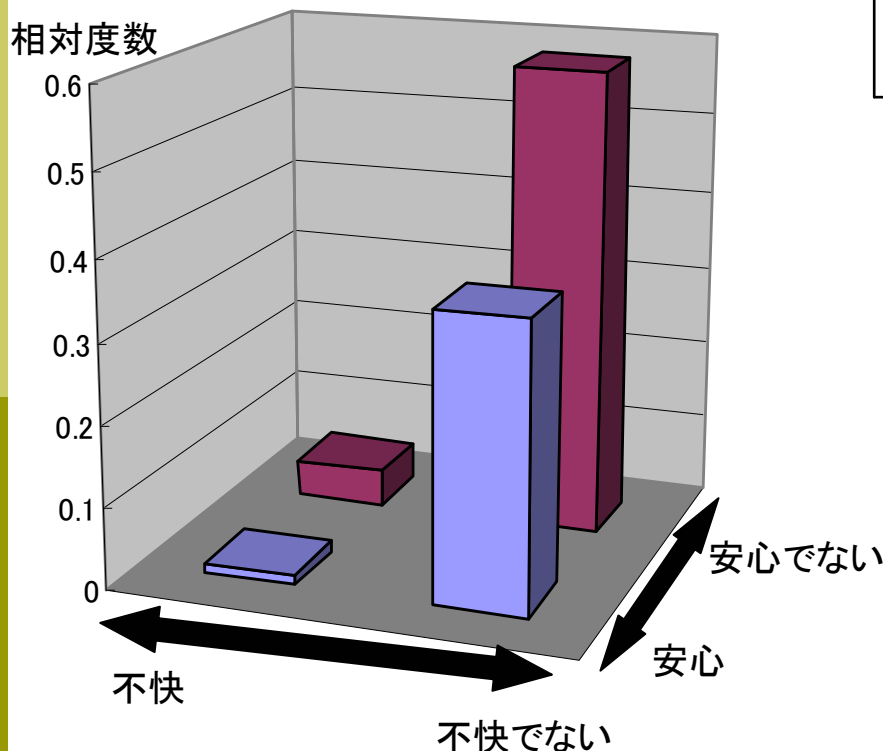
- ① 避ける事のできない状況である
- ② 監視の対象が個人である
- ③ 情報の提供が連続的である

以上のうち、少なくとも1つを満たしていない

アンケート結果(大問 I ー 全体)

Group3: 不快感も安心感も弱い

例: 免許作成のための顔写真(設問10)



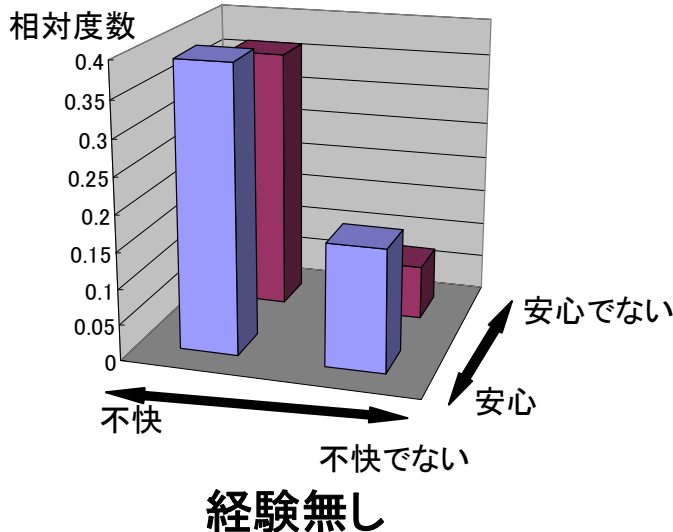
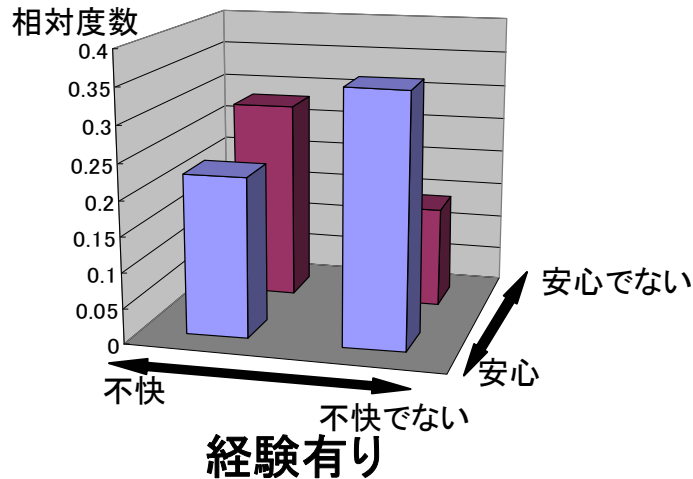
回答の傾向	設問
不快感も 安心感も弱い	<ul style="list-style-type: none">・ 免許作成のための顔写真 (設問10)・ 社員証・学生証のための顔写真 (設問11)

共通点

- ① 連続的な情報提供を要求しない
- ② 社会生活を営む上での当然の義務と認識している

アンケート結果(大問I – 経験有無)

例: 自宅付近の監視カメラ(設問5)



ほとんどの設問において、
経験のある人々の方が

- ① 不快感を抱くことが少ない
- ② 安心感を抱く

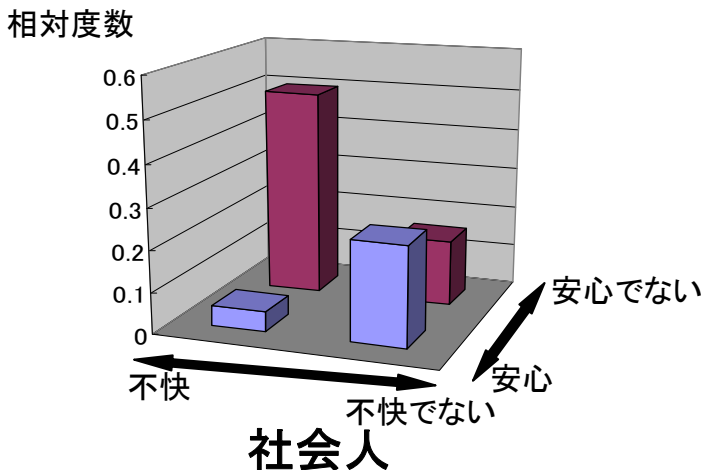
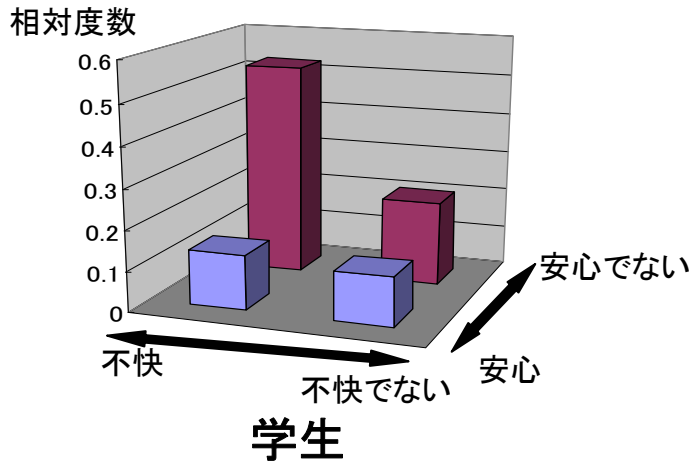
考察

- ① 未知の事象に対して、不安感や恐怖感を抱きやすい
- ② 事象を繰り返し経験することで、それに慣れる

アンケート結果(大問 I - 学生・社会人別)

Group1: 社会人が肯定的な項目

例: 事前通知のあるメール検閲(設問2)



回答の傾向	設問
社会人が肯定的な傾向を示す	<ul style="list-style-type: none"> ・職場における、事前通知のある、メールの閲覧(設問2) ・公園・大通りの監視カメラ(設問3) ・知人宅内の監視カメラ(設問6) ・車道における、自動車ナンバーの監視(設問12) ・オフィス・教室の監視カメラ(設問16)

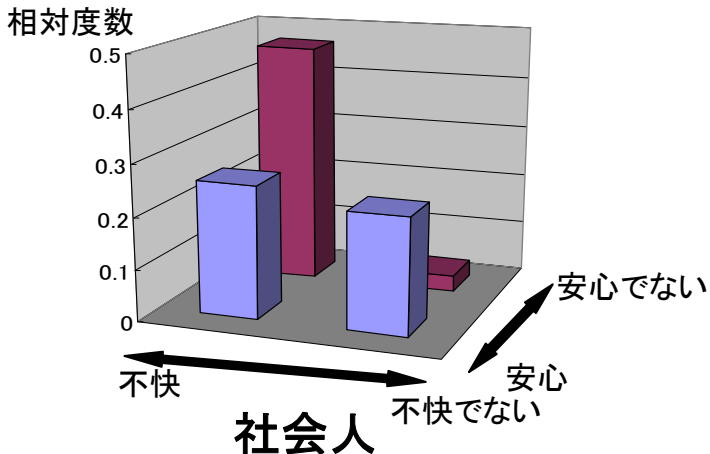
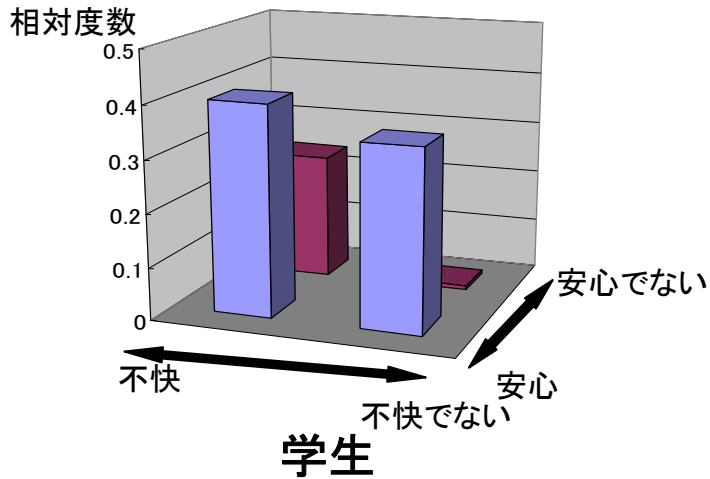
考察

- ① 学生よりもこれらの事例に対し、多くの経験を積んでいるため、寛容になっている

アンケート結果(大問 I - 学生・社会人別)

Group2: 社会人が否定的な項目

例: 許可のないメールアドレスの掲載(設問19)



回答の傾向	設問
社会人が否定的な傾向を示す	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅付近の監視カメラ (設問5) ・ 許可のない住所・電話番号の掲載 (設問18) ・ 許可のないメールアドレスの掲載 (設問19)

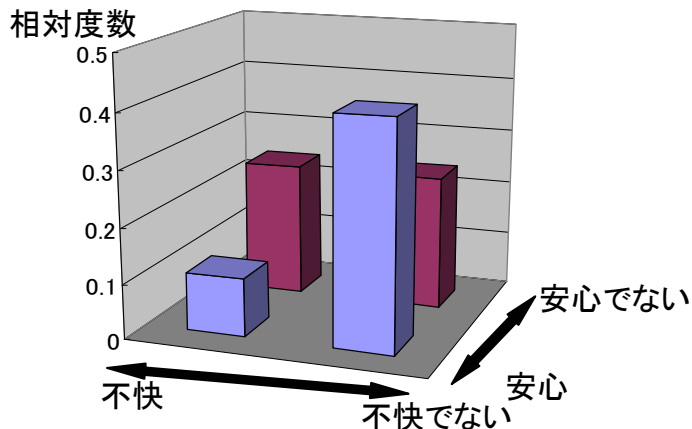
考察

- ① 社会人は学生よりも、セールスの対象となりやすいため、無許可での情報提供に慎重である

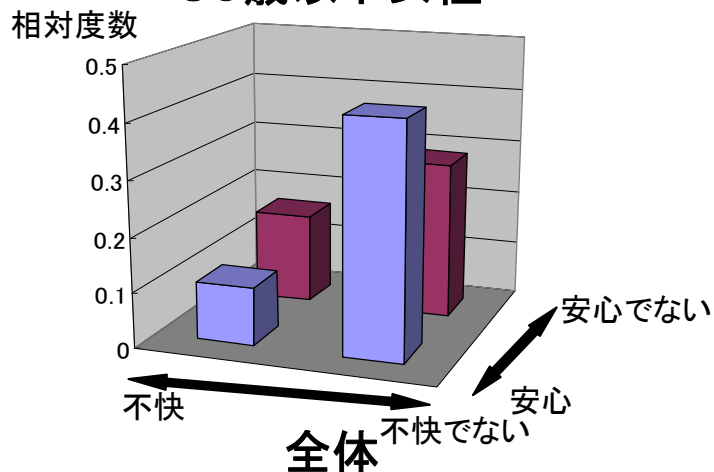
アンケート結果(大問 I - 性別・年齢別)

Group1: 若い女性が否定的な傾向を示す項目

例: 空港での顔写真(設問7)



30歳以下女性



全体

回答の傾向	設問
若い女性が否定的な傾向を示す	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場における、事前通知のある、メールの閲覧 (設問2) ・ 公園・大通りの監視カメラ (設問3) ・ 知人宅内の監視カメラ (設問6) ・ 空港での顔写真 (設問7) ・ 携帯電話の記録 (設問17) ・ 会誌への、許可のない住所・電話番号の掲載 (設問18) ・ 会誌への、許可のないメールアドレスの掲載 (設問19)

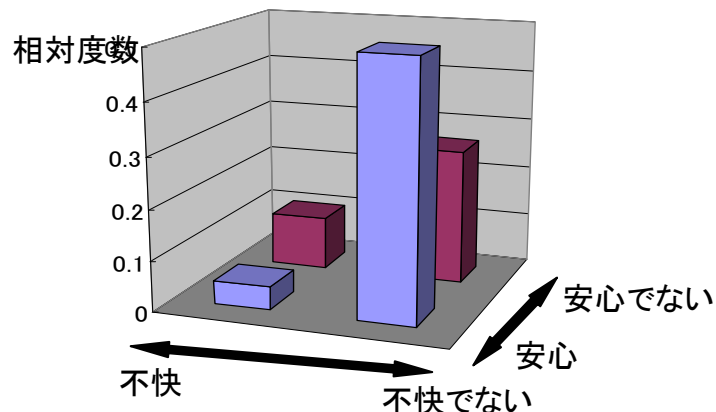
考察

①若い女性は個人情報の扱われ方に敏感である

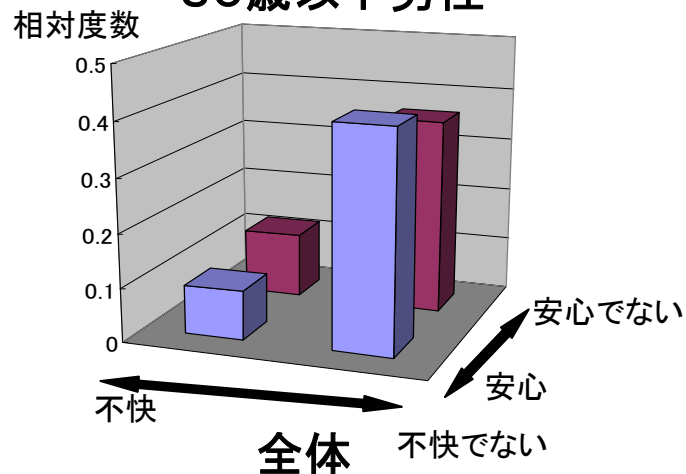
アンケート結果(大問 I - 性別・年齢別)

Group2: 若い男性が特徴的な傾向を示す項目

例: スタジアムの監視カメラ(設問4)



30歳以下男性



全体

回答の傾向	設問
若い男性が特徴的な傾向を示す	<ul style="list-style-type: none"> スタジアムの監視カメラ(設問4) 空港での指紋・虹彩(設問8)

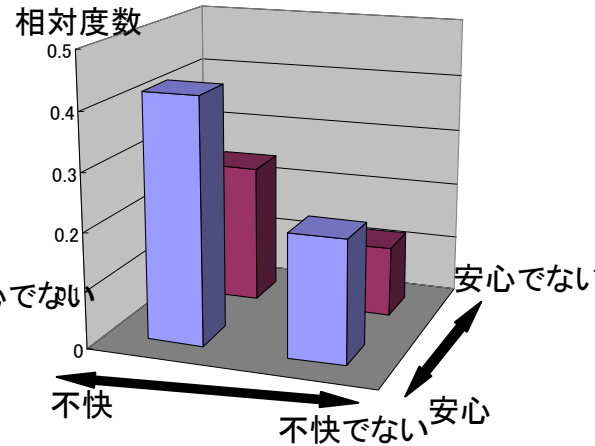
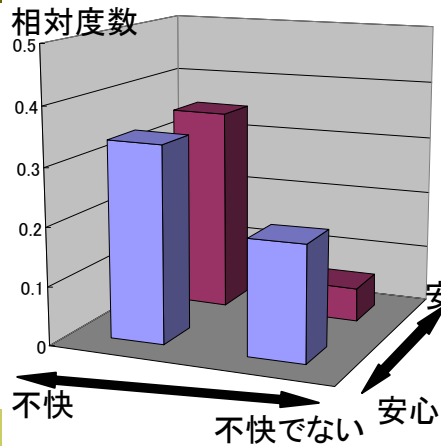
考察

①若い男性は、女性や他世代の人々よりも個人情報の扱われ方にルーズである

アンケート結果(大問 I - 性別・年齢別)

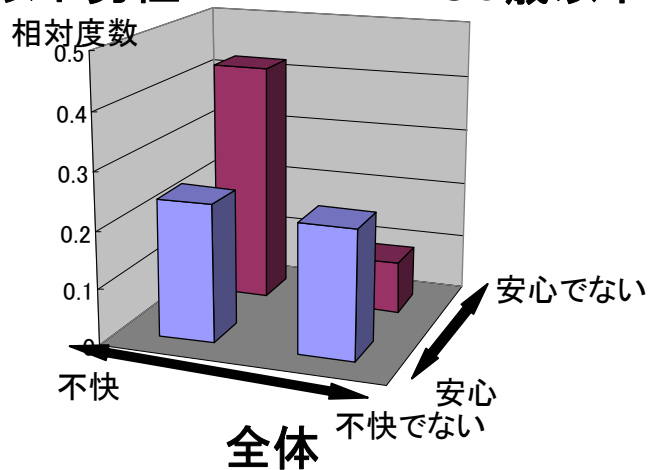
Group3: 性別や世代によって評価が分かれる項目

例: 自宅付近の監視カメラ(設問5)



30歳以下男性

30歳以下女性



回答の傾向	設問
性別や世代によって評価が分かれる	<ul style="list-style-type: none"> 自宅付近の監視カメラ(設問5) 職場・学校での指紋・光彩(設問9)

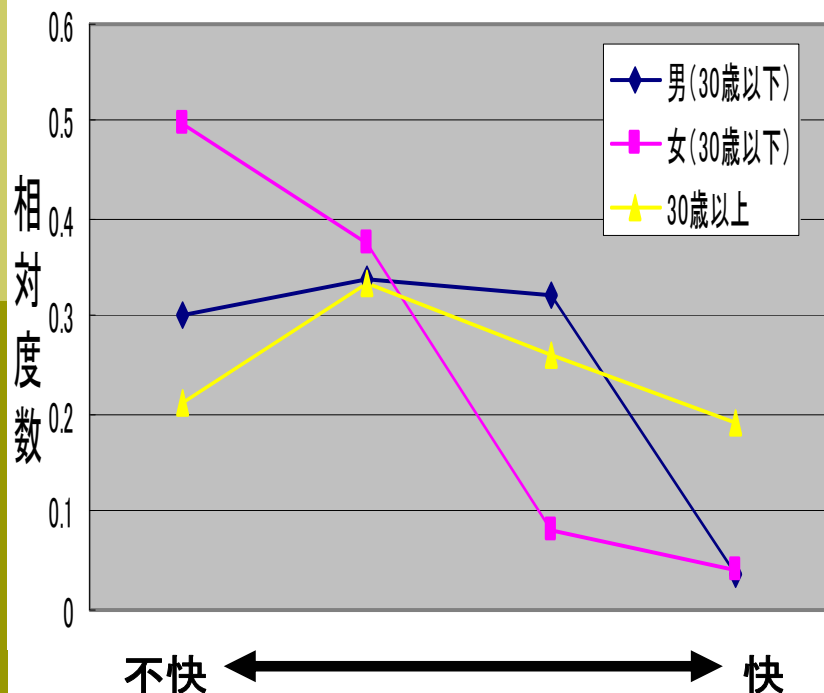
考察

- ① 個人情報に対する考え方は、世代によって異なる

アンケート結果(大問Ⅱ-性別・年齢別)

Group1: 若い女性だけが不快感の高い項目

設問6: 外部への自分の名前の開示



回答の傾向	設問
若い女性だけが不快感が高い	<ul style="list-style-type: none">自分を含むテストの成績上位者の公表 (設問5)合格発表等で、外部への自分の名前の開示 (設問6)

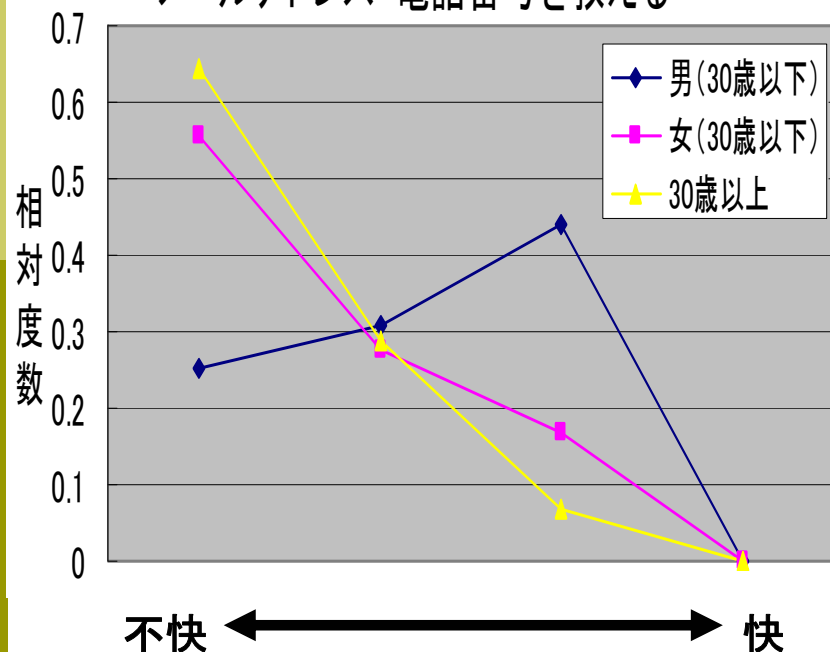
考察

- ①若い女性は、プライバシー侵害や犯罪の危険性を身近に感じているため、自分の個人情報の漏洩に敏感である

アンケート結果(大問Ⅱ-性別・年齢別)

Group2: 若い男性以外で不快感の高い項目

設問4: 知人が知人(第三者)に
メールアドレス・電話番号を教える



回答の傾向	設問
若い男性以外で不快感の高い項目	<ul style="list-style-type: none">・ 知人が知人(第三者)に自分の電話番号・メールアドレスを教える(設問4)・ 自分のWebサイトに無断でリンクを張られる(設問11)・ 無断で小説コミック等のモデルにされる(設問13)

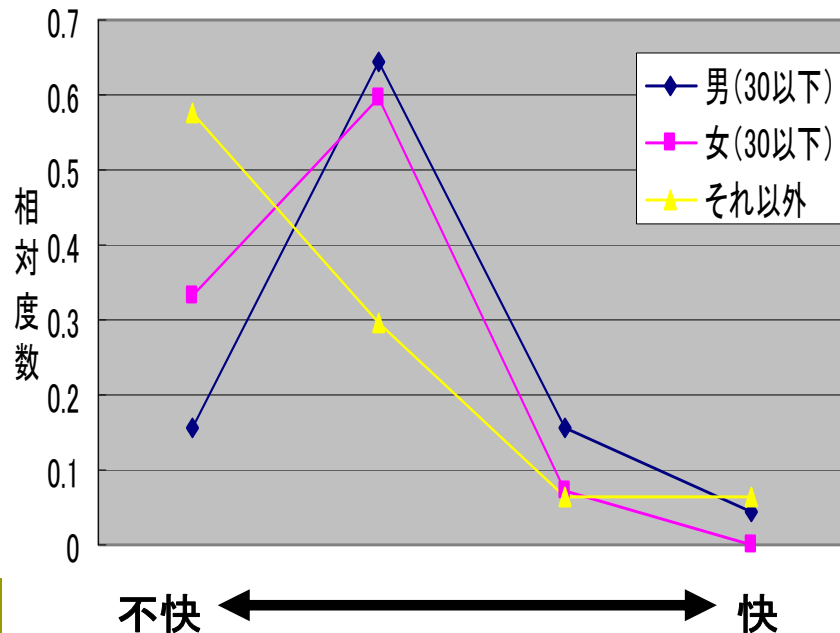
考察

- ①若い男性は個人情報の扱われ方に対するリスク認知が低い

アンケート結果(大問Ⅱー性別・年齢別)

Group3: 30以上男女だけで不快感の高い項目

設問10: マスメディアによる、
公園・大通りでの無許可撮影



回答の傾向	設問
30以上の男女だけが不快感の高い項目	・マスメディアによる、普段通る公園や大通りの歩行者の、無許可での撮影・報道(設問10)

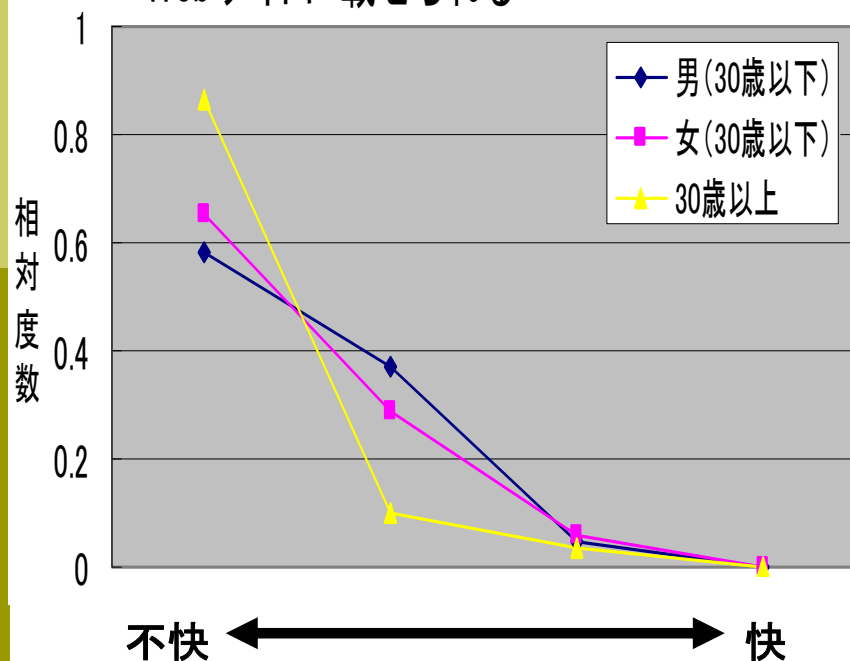
考察

- ①年配の方々は個人情報の扱われ方に慎重である
- ②自分の個人情報の扱い方に関する責任感が強い

アンケート結果（大問Ⅱ－学生・社会人別）

Group1: 社会人だけ不快感の高い項目

設問7: 過去に話した内容を無許可で
Webサイトに載せられる



回答の傾向	設問
社会人だけ不快感の高い項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知人が知人（第三者）に自分の電話番号・メールアドレスを教える（設問4） ・ Webサイト上に自分が過去に話したことを、許可なく載せられる（設問7） ...etc

考察

- ① 社会人は個人情報の扱われ方に慎重である
- ② 自分の個人情報の扱い方に関する責任感が強い

プライバシー全体についての意識調査

□ プライバシー侵害における実害の想定

各年代別、性別の被害想定が多い項目

□ 30以下の男性

- ・PC、携帯、メールなどの情報流出

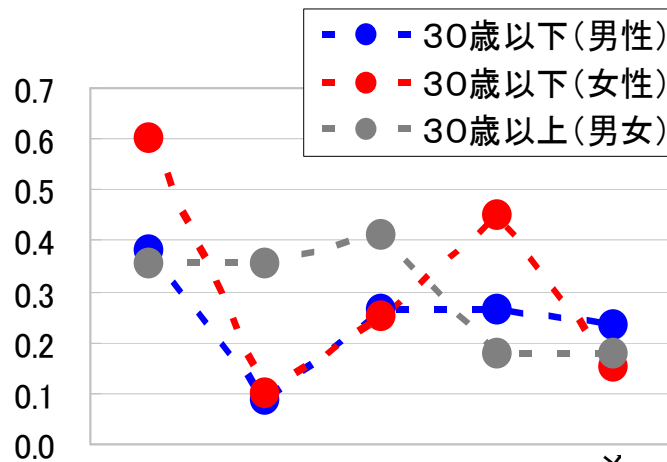
□ 30以下の女性

- ・強盗、不法侵入、ストーカーなどの犯罪
- ・風評、噂、人間関係など

□ 30以上の男女

- ・詐欺などの犯罪
- ・勧誘のセールス、電話、メール

各回答者
に対する
想定した
割合



犯罪(強盗・ストーカーなど)
犯罪(詐欺)
勧誘・セールスなど
風評・噂・人間関係
PC・携帯・メールなどの情報流出

まとめ(1/2)

- プライバシーの問題を論じる際、個人情報を提供する当事者の見解が大きな意味を持つことを考え、その実態調査と分析を行った。
- 監視カメラについて、人々は、カメラの管理主体が誰であるかによって、異なった態度を示す。
- 安全保障を目的とした個人情報の提供自体には、不快感を覚えるのではなく、いくつかの条件が満たされてはじめて、プライバシー侵害と感じる。

まとめ(2/2)

- 人々は、未経験の事象に対しては不快感を抱きやすいが、経験のある事象に対しては、好意的になりやすい。
- 何をプライバシーの侵害と感じるかについては、性別、年齢、社会的な立場といった要素が、少なからず違いを生じさせている。特に若い女性において、その傾向は顕著であった。

Thank you for your attention!